

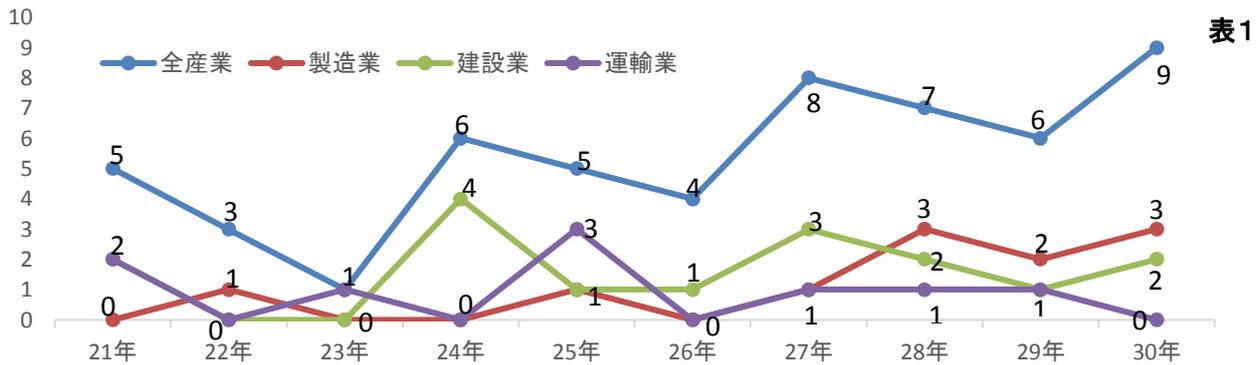
令和1年度 労働災害の現状

浜松労働基準監督署

1. 労働災害の概況

(1) 死亡災害の現状

- ① 平成30年における「全産業」での死亡者数は9人で前年に比べ3人増加であった。[表1・2参照]
- ② 業種別に見ると、「製造業」で3人、「建設業」、「小売業」で2人、「畜産業」、「卸売業」でそれぞれ1人ずつであった。[表1・2参照]
- ③ 事故の型別に見ると、「墜落・転落」、「はさまれ・巻き込まれ」及び「爆発」で2人、「交通事故(道路)」で2人、「激突され」で1人であった。[表2参照]
- ④ 起因物別に見ると、「トラック」で3人、「爆発性の物等」で2人、「乗用車・バス・バイク」、「建築物、構築物」、「エレベーター・リフト」、「動力伝導機構」でそれぞれ1人ずつであった。[表2参照]



平成30年 浜松署管内発生 死亡災害事例 表2

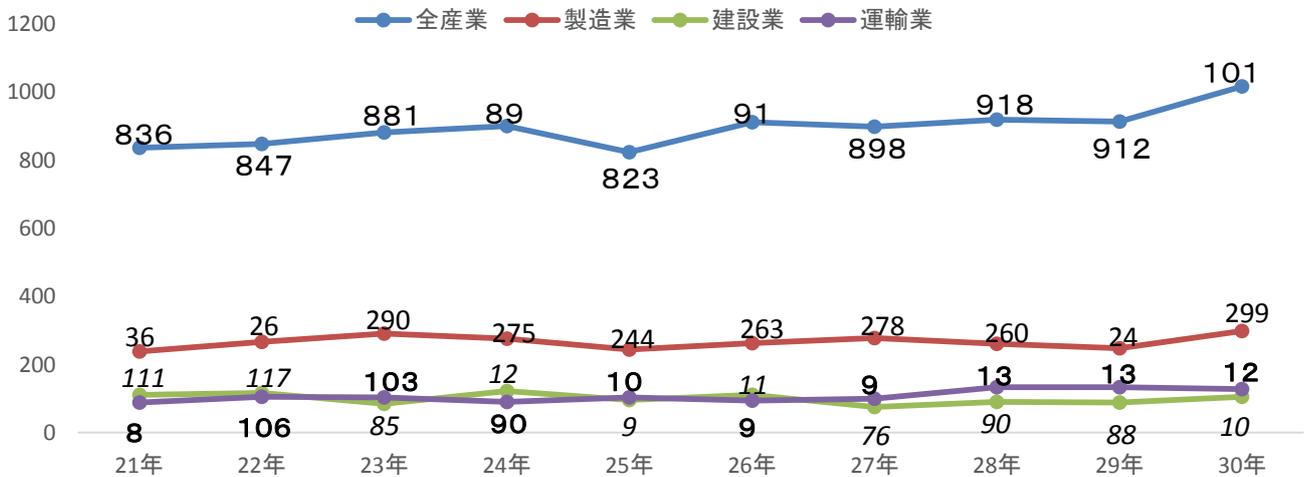
番号	発生月 業種	労働者数	事故の型		発生状況
			起因物		
1	2月 小売業	10人未満	交通事故 (道路)	乗用車・バス・ バイク	灯油の配達業務を行っていた被災者は業務用の軽トラックを運転し、信号機のある交差点を東側から直進したところ、交差点を南側から直進してきた乗用車と衝突し死亡したもの。乗用車の信号無視とみられている。
2	2月 小売業	10～29人	はさまれ・ 巻き込まれ	エレベーター・ リフト	弁当用のバック、箸等が保管されている2階建ての物置場において、被災者は2階に置かれた弁当用のバックを取りに行くため、積載荷重100kgのリフトの搬器に乗り、1階から2階へ上昇する途中で、搬器の枠と2階床面開口部の縁との間に胸部をはさまれて死亡したもの。
3	6月 化学工業	10～29人	爆発	爆発性の物等	花火工場で爆発が発生し、その火災によりコンクリート製平屋建ての隣接する建屋3棟が全焼した。爆発による爆風、火災により焼死した被災者が発見されたもの。
4	6月 化学工業	10～29人	爆発	爆発性の物等	花火工場で爆発が発生し、その火災によりコンクリート製平屋建ての隣接する建屋3棟が全焼し、被災者が屋外で発見された。被災者は2日後に全身熱傷により死亡したもの。
5	7月 建設業 (建築工事)	10人未満	墜落・転落	建築物、構築物	1階のエレベーターピットの近くで作業をしていた作業員が、人が落ちたような音を聞き確認したところ、被災者が倒れているのを発見したもの。被災者は高さ約14mの5階エレベーター開口部の養生幕の幅木が破損していたため、当該箇所からエレベーターピットに墜落したものと推定。
6	9月 木材・木製品 製造業	10～29人	交通事故 (道路)	トラック	外注先の25tトラックの運転者が工場で生産された木質チップの積込みを終え、工場の前のT字路(公道)で方向転換のため後退したところ、工場の夜間の巡回警備に従事する被災者が、トラックの左後輪に轢かれ2日後に死亡したもの。
7	11月 土木工事業	100～299人	激突され	トラック	被災者はトンネル坑口より約2kmの地点で、切羽の吹付作業終了後にコンクリートポンプ車のホッパーの掃除をしていた。約5m離れた場所に停車していた無人のミキサー車が後進したため、被災者は激突されて死亡したもの。ミキサー車を停車していた場所は7%の傾斜地であった。
8	10月 卸売業	10～29人	墜落・転落	トラック	取引先の事業場に鉄製の網パレットを引き取りに行った被災者が、取引先事業場の敷地内に停めたトラックの近くで倒れていたところを発見され、収容先の病院で半月後に死亡したもの。目撃者はいないが、取引先事業場の敷地内で3tトラックの荷台に網パレットを積み込み、ロープを使った荷締め作業中に、足を滑らせ荷台から転落し頭部を強打したものと推定される。
9	12月 畜産業	10～29人	はさまれ・ 巻き込まれ	動力伝導機構	エアガンを用いて鶏舎内で羽毛を除去する清掃作業を行っていた被災者が、集卵エレベーター(以下コンベヤー)とコンベヤーとの間に取り付けられた動力伝達シャフト部分に、衣服、髪などが巻き込まれ意識不明の状態が発見された。その後、被災者は収容先の病院で死亡したもの。

(2) 死傷災害(死亡及び休業4日以上)の現状

- ① 平成30年における「全産業」での死傷者数は1015人で、前年の912人に比べ103人(11.3%)減少した。
[表3参照]
- ② 業種別に見ると、製造業が299人で最も多く、前年より51人(20.6%)増加し、次いで運輸業が128人で6人(4.7%)減少し、次いで建設業が105人で17人(19.3%)増加した。
[表3・4参照]
- ③ 事故の型別に見ると、「転倒」が222人で最も多く、前年より37人(19.3%)増加し、次いで、「墜落・転落」が179人で39人(27.9%)増加し、「はさまれ・巻き込まれ」が109人で8人(6.8%)減少した。
[表5参照]
- ④ 起因物別に見ると、「仮設物・建築物等」が276人と最も多く前年より54人(24.3%)増加し、次いで、「起因物なし」、「動力運搬機」の順となっている。
[表6参照]
- ⑤ 事業場規模別に見ると、労働者数50人未満の事業場で61%を占めている。
[表7参照]
- ⑥ 年齢別に見ると、60歳以上が最も多く31%で、50歳代と合わせると高齢労働者の災害が54%と、半数以上を占めている。
[表8参照]

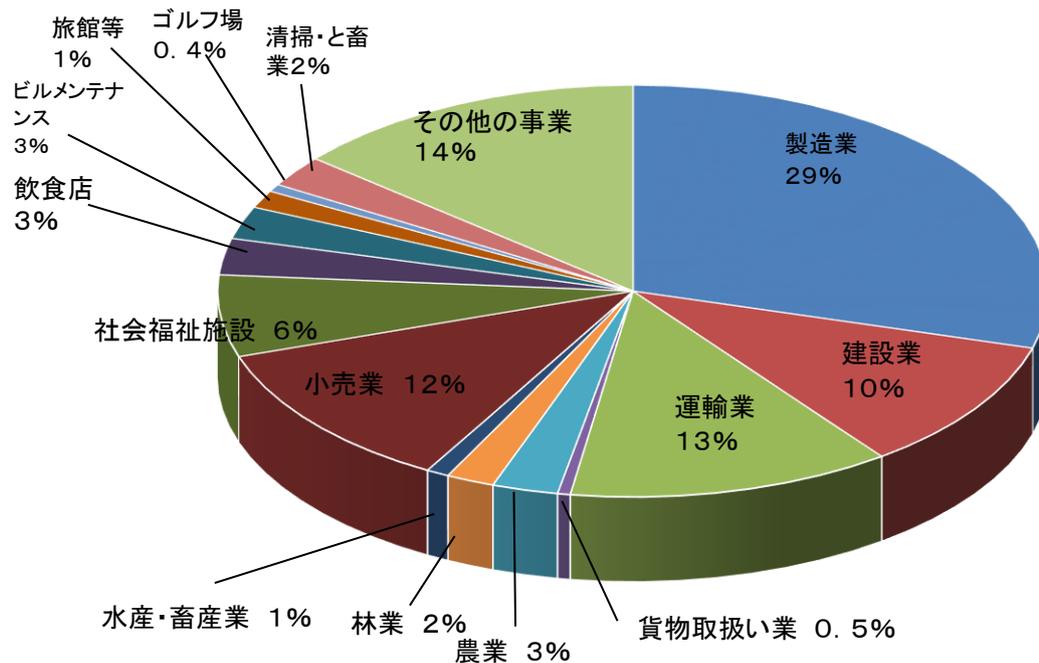
死傷災害の年別推移

表3



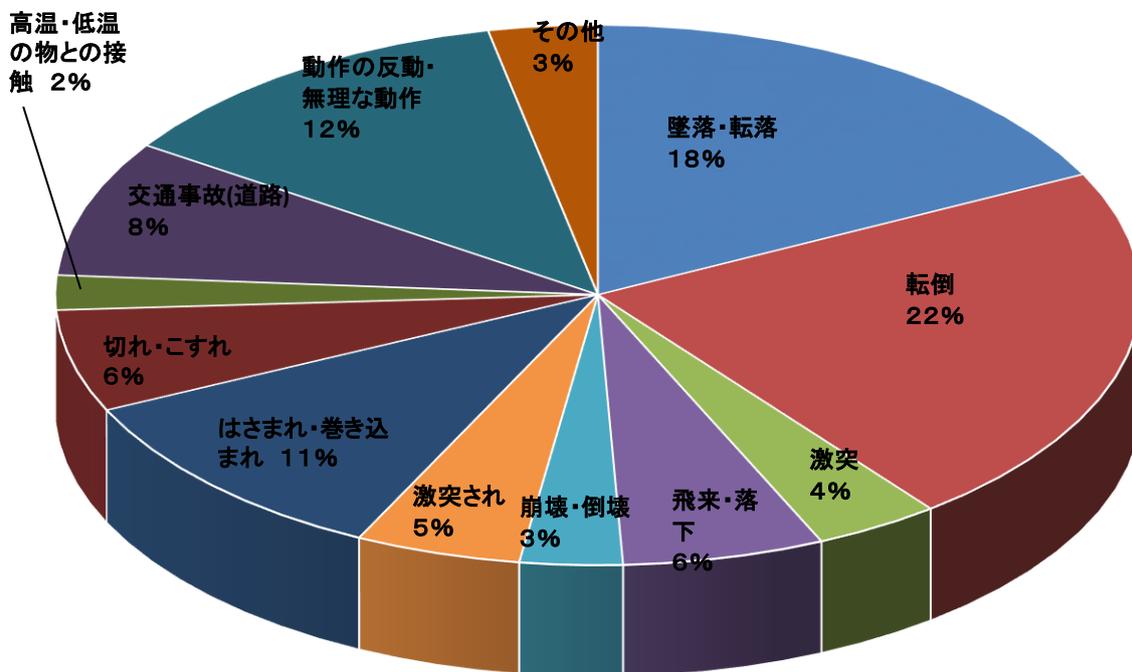
業種別死傷災害

表4



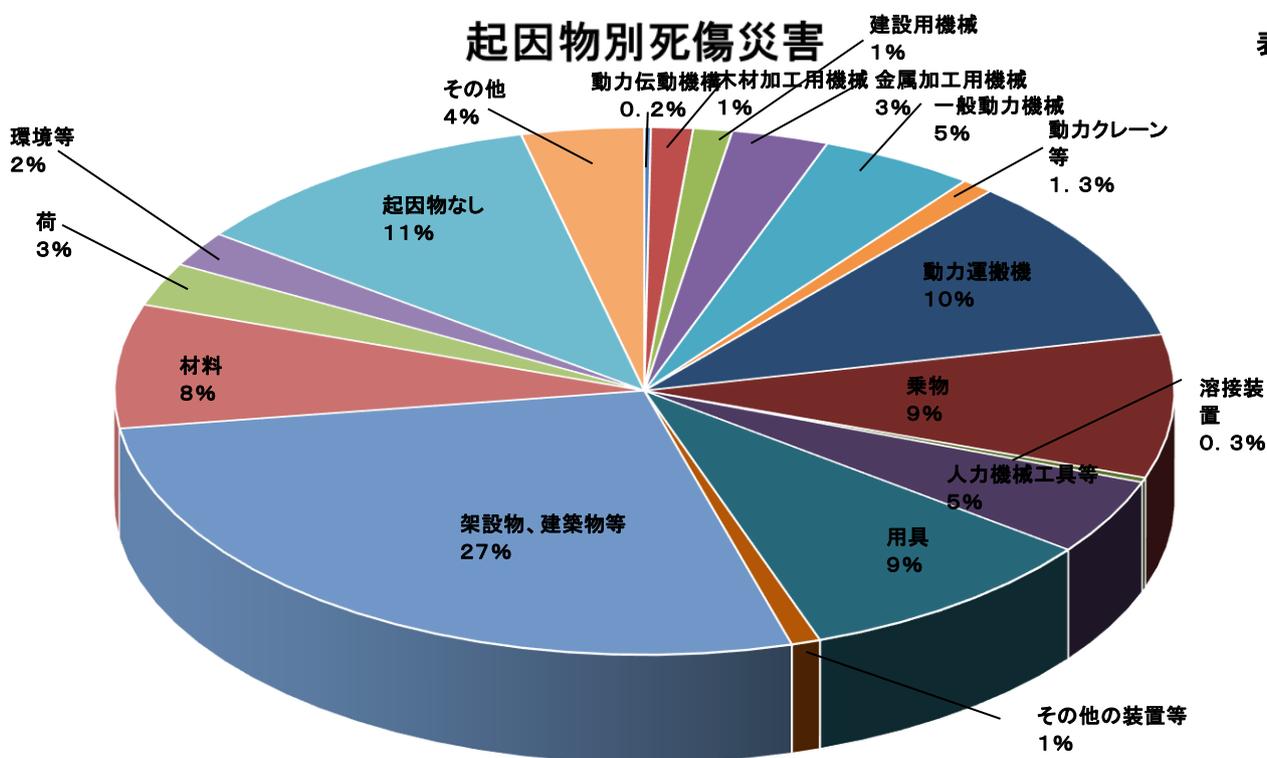
事故の型別死傷災

表5



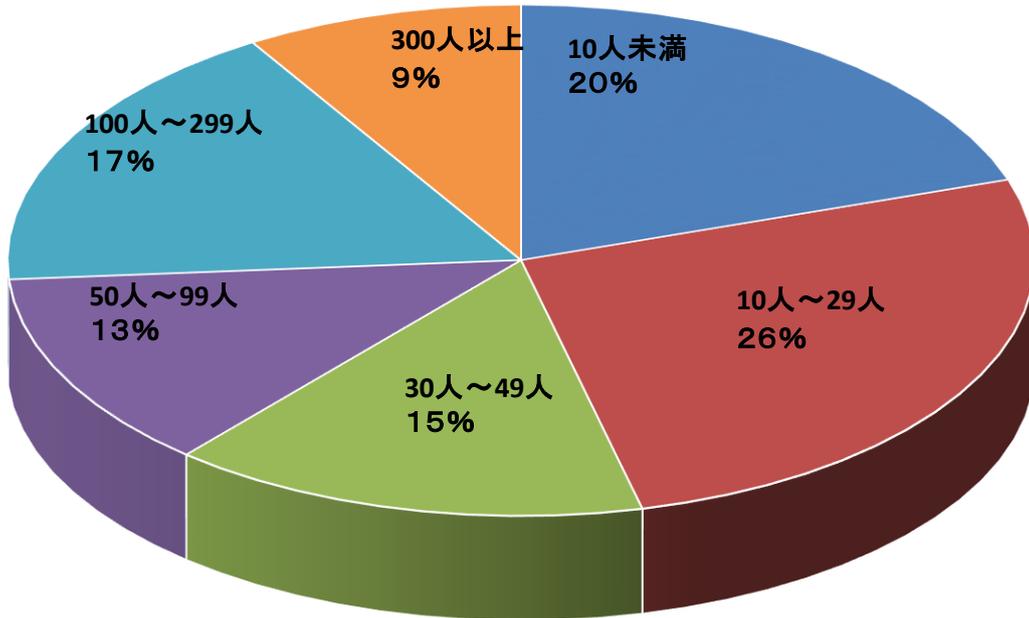
起因物別死傷災害

表6



事業場規模別死傷災害

表7



年齢別死傷災害

表8

